



## 写真で見る社会科

### 小豆島のオリーブ

小豆島でオリーブの栽培が始まったのは、1908（明治41）年4月22日のことだった。香川県（小豆島）・三重県・鹿児島県の3県に試験栽培として植えられたオリーブの苗木はこの小豆島だけで根づき、今年（2008年）は100周年を迎えた。香川県では小豆郡小豆島町西村にオリーブ試験地を創設し、119aの土地に519本の苗木が栽培された。3年後には7kgの実が収穫され、1911（明治44）年3月現在で、507本が根づいたとの報告がある。当時植えられたオリーブは、1本も残ってはおらず、現在小豆島にあるもっとも古いオリーブの木（写真①）は、最初に植えられた木の孫にあたる（1937年挿し木）。

オリーブは、5月末から6月のはじめに乳白色の小さな花を咲かせる。そして、夏の日差しの中で、小さな緑色の実が大きく成長し、9月末から11月中旬頃までは、塩漬け用の緑色の実、11月上旬から12月にかけて、オイル用の熟した黒紫色の実が収穫される。収穫されたオイ

ル用のオリーブは、洗浄・分別（写真②）された後、ペースト状にされ、固形物や水分と分離され、黄金色でフルーティーなオリーブオイルとなる（協力：東洋オリーブ株式会社）。

1990年代ははじめにかけて、栽培面積・生産量ともに激減した小豆島オリーブだが、最近では、健康志向の高まりや平和のシンボルとしてのオリーブが見直され、栽培面積・生産量とも増加傾向になっている。また、小豆島の観光資源の一つとして、『二十四の瞳』の舞台で有名な田の浦地区を望む、西村地区のオリーブ発祥の地周辺に「オリーブ公園（写真③）」が整備され、オリーブの収穫体験（写真④）や各種ハーブを使用したクラフトづくりなどができる。さらに、写真のようなハート型のオリーブの葉っぱを見つけたら、幸せになれるそうだ。

（小豆島町立池田中学校 樋本清輝）

#### 写・真・募・集

このコーナーの「カラー写真」を募集しています。国内・海外で撮影された社会科の写真を、資料編集部「中学校社会科のしおり」係までお送りください。